

露地イチジク収穫が西尾でピーク 8月下旬には1日8000パックを収穫・出荷

8月中下旬、JA西三河管内の西尾市では露地イチジクの出荷が最盛期を迎えます。

露地イチジクは7月下旬より出荷を開始し、8月中下旬が出荷量のピーク。最盛期には、西尾市内で1日当たり8,000パック（1パック380g²）を収穫。約半数が小牧センター、残り半数が安城市のJAあいち経済連パッキングセンターへ集荷されます。

今年は春先の気温が高く、平年よりも生育が進んでいます。5月ごろに病害虫の発生が見られましたが、適切な対策により防除を行い、その後は順調に生育しました。



小牧センターでの選果風景

【JA西三河いちじく部会 概要】

部会員数：47戸 生産面積：約6.9⁹ha
生産量：157^ト（うちハウス44^ト・露地113^ト）
販売額：1億2000万円（露地・ハウス合計）
出荷先：主に中京市場・京浜市場
出荷品種：「柘井ドーフィン」

■産地を支える「いちじくスクール」

近年の農家数の減少傾向の中で、JA西三河いちじく部会の部会員数は昨年よりも1戸増加と、生産規模を維持しています。

これを支えているのが、西尾市・愛知県とJAグループが協力して2015年に開校した「いちじくスクール」。受講生は1年をかけてイチジク栽培の知識と技術を学びます。

今年4月の修了生のうち4人がいちじく部会へ入会。イチジク専門の新規就農者向け講座は珍しく、西尾市外からも受講生が集まり、日本一のイチジク産地である愛知県の生産基盤を支えています。



いちじくスクールでの
誘引作業実習

■取材対応日■

【日時】8月17日（水） 11時30分開始

【集合】JA西三河 小牧センター（西尾市吉良町小牧 電話：0563-35-0246）

※ 取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の岡田までご連絡ください。